

2022年 世界の主な自然災害

海外消防情報センター



パキスタンで洪水深刻化 国土の3分の1が水没 (写真: AFP / アフロ)

本資料は、2022年の1年間において世界各地で発生した主要・特徴的な自然災害について、国連機関(UNDRR、OCHA)や通信社等の報道内容をもとに、おおむね災害の態様ごとに整理したものである。インデックス的な参考資料としてご活用いただければ幸いである。

(注) 各災害の被害状況については、途中経過的なものも多く含まれており、最終確定結果ではないことに留意願いたい。

1 地震災害

《アフガニスタン》

2022年1月17日、北西部バドギス州でM4.9(午後2時過ぎ(以下、本稿ではすべて現地時間))及びM5.3(午後4時10分頃)の地震が発生し、死者は30人となった。被災地域は、トルクメニスタンと国境を接し、アフガニスタンでも特に開発が遅れ、貧しい地区といわれる。

また、6月22日午前1時24分頃、南東部ホスト州でM5.9の地震が発生し、死者は1,100人を超え、負傷者も約3,000人となった。被害の大きかった地域は貧しい地域で、日干しレンガとモルタルを積み重ねた構造の住宅がほとんどで、耐震性が低かったことに加え、深夜の就寝時

間帯だったことから大きな被害につながったものとみられる。

《フィリピン》

7月27日午前8時43分頃、ルソン島アブラ州を震源とするM7.0の地震が発生し、死者11人、負傷者約600人のほか、一部損壊以上の建物被害は約35,000棟となった。

《中国》

9月5日午後0時52分頃、四川省カンゼ・チベット族自治州を震源とするM6.8の地震が発生し、死者は同自治州に隣接する雅安市で多く出たともいわれ、少なくとも死者82人、行方不明者は35人となった。

《パプアニューギニア》

9月11日午前9時45分頃、東部カインントウの東約67kmを震源とするM7.6の地震が発生し、死者は12人となった。

《インドネシア》

11月21日午後1時21分頃、西ジャワ州チアンジュールを震源とするM5.6の地震が発生し、330人を超える死者・行方不明者となったほか、全壊及び半壊以上の建物被害は約2万棟となるなど甚大な被害となった。

2 大雨・豪雨災害等

《ブラジル》

各地で洪水、土砂災害等による甚大な被害が発生した。

- ・サンパウロ州で、1月28日からの大雨で洪水や土砂災害が発生し、死者は24人となった。なお、前年12月以降、各地で大雨による深刻な被害が続いている。
- ・リオデジャネイロ州ペトロポリスで、2月15日に大雨による大規模な土砂崩れが発生し、少なくとも死者は152人となったほか、行方不明者が多数出た。
- ・北東部のペルナンブコ州で、5月後半に約1週間にわたる断続的な強い雨により洪水、土砂崩れが発生し、29日までに死者は79人、行方不明者は50人を超えた。
- ・パラナ州で、11月29日から30日にかけての大雨により高速道路で土砂崩れが発生し、20台を超えるトラック・乗用車が巻き込まれ、死者・行方不明者は合わせて30人を超えた。

《南アフリカ》

東部のクワズールー・ナタール州ダーバンで4月11日から続く大雨により洪水が発生し、死者は443人、行方不明は少なくとも63人となった。

《南アジア地域》

6月から9月のモンスーン期を中心に大雨・洪水等により、パキスタンをはじめ、インド、バングラデシュ、アフガニスタン、ネパール等で甚大な被害が発生している。ここでは、各国における個別の災害のいくつかについてトピック的に記

述する。

・パキスタン

6月中旬～7月初旬、8月中旬～下旬等において、各地で平年の10倍等の降雨量の大雨が続き、広範囲で洪水や土砂崩れが相次いで発生し、死者は1,500人を超えた。北部山岳地帯の氷河が温暖化で解けたことも被害を拡大させた要因との見解もある。国土の3分の1が水没し、被災者は3,300万人、被災家屋は99万棟を超えた。また、夏以降、マラリア等の感染症も2次災害として広がった。

・インド及びバングラデシュ

6月20日、インドの北東部のアッサム州やメガラヤ州、バングラデシュの北東部で、モンスーンの豪雨により洪水や土砂崩れが相次ぎ、インドで死者35人、バングラデシュで死者25人となった。

・アフガニスタン

8月1日、首都カブールから北東約200kmのヌリスタン州で集中豪雨による洪水が発生し、少なくとも死者は113人、行方不明者は100人を超えた。また、8月21日、東部ロガール州で豪雨による鉄砲水が発生し、少なくとも死者は20人となった。

・インド

7月8日、カシミール州アマルナートにあるヒマラヤ・ヒンズー教の洞窟神殿付近で、集中豪雨により鉄砲水が発生し、死者は13人、行方不明者は30人を超えた。また、8月21日、北部ヒマチャル・プラデシュ州や東部オリッサ州で大雨による洪水や土砂災害が相次ぎ、少なくとも死者は50人を超えた。

・ネパール

9月17日、西部アチャム郡で地滑りによる死者が22人となるなど、9月初旬以降の集中豪雨で被害が広がった。

《イラン》

年間を通じて雨量の少ないイランで、7月27日から30日にかけて大雨が降り、洪水や土砂崩れが発生し、死者は61人、行方不明者は32人となった。

《アメリカ》

7月31日、ケンタッキー州で大規模な洪水が発生し、子供4人を含む死者は25人となった。

《中国》

8月19日、内陸部の青海省で前夜の大雨により土石流が発生し、家屋や道路を押し流し、少なくとも死者は17人、行方不明者は17人となった。

《ナイジェリア》

9月中旬、北部・中部地域等をはじめ広い範囲で豪雨が続き河川決壊・洪水が発生し、9月以前の被災も含め約500人が死亡し、数十万人が被災した。

《ベネズエラ》

10月10日、アラグア州ラス・テヘリアスの町で大雨に続き壊滅的な洪水が発生し、少なくとも死者は43人、行方不明者は56人となった。

《コンゴ》

12月12日から13日にかけて、首都キンシャサで豪雨により洪水、地滑り、道路・土地の陥没が発生し、少なくとも死者は120人、約39,000世帯が浸水、斜面の貧しい地区に建てられた家屋・建物が多数倒壊するなど甚大な被害となった。

《マレーシア》

12月16日、首都クアラルンプール近郊スランゴール州の丘陵中腹にある農場内キャンプ場で土砂崩れが発生し、死者は24人、行方不明者は9人となった。

3 台風・ハリケーン・サイクロン等

《マダガスカル》

1月24日にサイクロン「アナ」が上陸、大規模な洪水が発生し、死者は55人となった。その後、モザンビークとマラウイを横断し、モザンビークで少なくとも死者18人、マラウイでは少なくとも死者11人となった。

また、2月5日から6日にかけて風速約46mのサイクロン「バチライ」が上陸し、家屋の下敷きになるなどして死者は92人となった。ほとんどの家は土でできており、洪水で泥のようになっ

て崩れたといわれる。

《フィリピン》

4月10日にレイテ湾から上陸した台風「メギ」は、ゆっくり進行したことで各地に大雨、洪水、土砂崩れをもたらし、少なくとも死者は148人、行方不明者は100人を超えた。

また、10月末の週末にルソン島南東部に上陸した熱帯低気圧「ナルガエ」（日本では台風22号）により、150人を超える死者・行方不明者と180万人を超える被災者を出した。

《アメリカ》

9月28日から10月初めにかけて、フロリダ州などをハリケーン「イアン」が襲い、少なくとも死者は157人となった。イアンは、1935年の大型ハリケーン以来、フロリダ州を襲った最悪のハリケーン（カテゴリー4）で、この影響で何百万人もの人々が停電に見舞われた。

4 寒波・大雪

《パキスタン》

1月7日、首都イスラマバードの北東約70kmの山間の町マリーで、珍しい雪景色見物に訪れた数千台の車が吹雪で立ち往生し、少なくとも死者は22人となった。降り積もった雪で車の排気口がふさがれたことによる一酸化炭素中毒死といわれる。

《日本》

12月17日から及び22日からの2度にわたり日本列島は北日本から西日本の日本海側を中心に記録的大雪となり、死者19人、140人を超える負傷者となった。また、各地で停電や車の立ち往生が発生し、生活への影響・混乱が続いた。近年の大雪では、その原因として日本海寒帯気団収束帯（Japan sea Polar air mass Convergence Zone：JPCZ）への関心が高まっている。

《アメリカ》

12月22日から年末にかけて、ニューヨーク州エリー郡はじめアメリカ各地を襲った45年ぶりともいわれる歴史的な大寒波・猛吹雪による凍結、交通の遮断、停電等で被害が広範囲に広がり、

26日までに少なくとも死者57人となった。特に、エリー湖周辺地域は被害が大きく、ニューヨーク州バッファロー地域では少なくとも死者37人となった。

5 熱波・温暖化

《イタリア》

7月3日、ドロミテ山脈の最高峰マルモラーダ山（標高3,340 m）の山頂に向かう通常ルートで氷河の一部が崩壊、雪崩が発生し、死者9人、行方不明者3人となった。前日の気温が10度と観測史上最高を記録していたといわれる。

《ヨーロッパ各国》

7月以降、ポルトガルでは猛烈熱波が原因で高齢者を中心に1,000人を超える死者を出した。同月14日には最高気温が47度に達していた。

また、ヨーロッパ各地でも、広い範囲で約一週間にわたり猛烈な熱波に見舞われ、フランス、イタリア、ギリシャ、スペインでは大規模山林火災が続き、甚大な被害となった。

6 火山噴火

《トンガ》

1月15日午後5時頃、海底火山「フンガ・トンガ＝フンガ・ハアパイ火山」が大規模噴火し、周辺国のほか日本やアメリカなど太平洋沿岸の広範な地域に火山津波が押し寄せた。この海底火山の噴火は、観測史上最大規模のものだったといわれる。

トンガ島しょ部周辺をはじめ広大な海域で生態系を含め甚大な影響が出ており、津波（潮位変動最大20 m）や降灰によりトンガでは住民生活や観光産業・漁業等に重大な影響が出ている。幸いにも人的被害は最小限（トンガで1人、ペルーで2人が津波にさらわれ死亡）にとどまった。



トンガで海底火山大規模噴火（写真：Tonga Geological Services/ZUMA/アフロ）